

日本株投資で自己資本利益率（ROE）に注目する動きが広がっている。ROEなどを基準に構成銘柄を選ぶ株価指数「JPX日経インデックス400」は先週、年初来高値をつけた。採用銘柄のうち、指数が年初来安値となった4月14日から7月25日までの上昇基調をけん引したのはどれか。株価上昇率のランキン

日本株 番付

グを見ると、上位には半導体関連や建設関連が目立った。いずれも市場拡大が見込まれている。

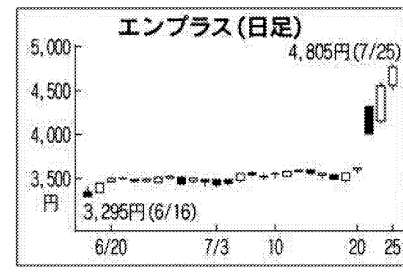
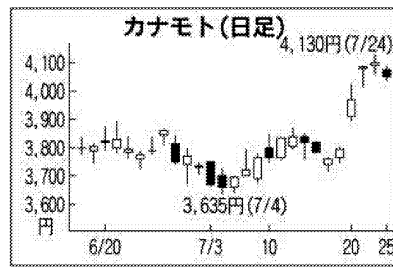
1位はプラスチック部品製造のエンプラスだった。20日に発表した2017年4～6月期の連結純利益は前年同期比34%増の10億円。自動車の電装化を追い風に、半導体ソケットの販

JPX日経インデックス400採用銘柄の株価上昇率

銘柄名	株価上昇率	前期の自己資本利益率
1 エンプラス	63.2%	10.6%
2 カナモト	49.3	11.1
3 安川電	47.2	10.7
4 ダイフク	43.3	12.6
5 九電工	41.9	17.8
6 東エレク	41.7	19.1
7 FPG	41.0	45.2
8 イーグル工	40.0	10.9
9 熊谷組	39.4	22.6
10 東ソー	37.3	20.1
11 ミスミG	37.2	12.4
12 美替リース	36.6	9.2
13 オービック	35.3	13.8
14 日油	35.2	12.3
15 レオパレス	34.7	13.4
16 ネクソン	34.2	5.4
17 資生堂	33.6	8.2
18 日鉄住金物	33.3	10.0
19 HIS	33.2	0.3
20 ヤマハ	32.8	14.0

(注)7月25日とJPX日経400が年初来安値をつけた4月14日を終値で比較

JPX日経400、上昇のけん引役



売が伸びている。株価は翌日の21日にストップ高まで切り上がり、その後も堅調だ。

あらゆるモノがネットにつながる「IoT」の普及が見込まれ、半導体関連は市場拡大に期待が高まっている。6位には製造装置の東京エレクトロンが入った。データセンター向けな

上位に半導体・建設関連

ど半導体需要が増えており、半導体製造装置が好調だ。17年3月期のROEは19%で、18年3月期の年間配当は前期実績から145円増やし497円にする。積極的な株主還元策も株価を押し上げる要因となっている。

建設関連では2位に建設機械レンタルのカナモトが入った。16年夏に起きた台風被害に関連した復旧関連工事のほか、新幹線の整備需要が増えている。九州を地盤に電気工事を手がける九電工が5位に、熊谷組が9位に入ったのも目を引く。都市再開発や東京五輪関連など国内では建設需要が広がっている。

16年度の東証1部企業（金融など除く）のROEは8・7%だった。市場では高ROEで、需要拡大が確実に見込める銘柄への物色が続いている。大和証券の石黒英之シニアストラテジストは「4月以降、世界経済のピークアウト感が出ているため、需要増が見通しやすい銘柄に買いが集まっている」と話す。